

買い切り版 Office のサポートと新機能・Windows 機能について

Office 2019 のサポート期間は、メインストリームサポート 5 年 + 延長サポート 2 年でした。**(2025 年 10 月 14 日まで)**

しかし、Microsoft 製品のサポートポリシーの変更に伴い、Office 2021 はメインストリームサポート 5 年のみとなりました。**(2021 年 10 月 5 日から 2026 年 10 月 13 日まで)**

サポートが終了すると、セキュリティ更新プログラムが提供されなくなります。マルウェアへの感染やフィッシング詐欺などのリスクにさらされるので、注意が必要です。

対応 OS

Office 2021 の対応 OS は、Windows の場合は **Windows 10、Windows 11** です。

Windows 8 や Windows 7 はサポートされません。

Microsoft のサイトには、**Office 2021 の特徴**として以下の点が挙げられています。

- ・ 見栄えの良い文書を簡単に作成できる
- ・ 共同作業をスムーズに行える
- ・ 情報を効率的に整理できる

DX (デジタルトランスフォーメーション) やリモートワークの普及など、時代に合った進化をしていると言えます。

Office 2021 に**追加された新機能**をいくつかご紹介します。

ストック画像

ストック画像の機能では、文書内に画像、写真、アイコン、動画など様々な素材を挿入できます。

Office 製品内（文書内）で使用する場合、対外用に公開するサイトや社外向け資料であっても**著作権や使用料が発生しません。**

見栄えの良い資料を作るために活用できます



PowerPoint 2021 では、**インクの再生の機能**を使うことができます。

スタイラスペンなどで文字や図形を描画していく様子を、アニメーションで再生することができる機能です。

地図上に道順を示して分かりやすくしたり、注目させたい箇所に使用したり、プレゼン資料を作成する時に役立つでしょう。

Excel 2021 には、**XLOOKUP (エックス・ルックアップ) 関数が追加**されました。
表内の指定した値を検索し、それに対応する（同じ行や列にある）値を取得する関数です。

◎従来からある ^{バーチカル}VLOOKUP 関数は縦方向、^{ホライゾン}HLOOKUP 関数は横方向、というように、値を検索する方向が決まっていた。

然し、XLOOKUP は縦方向にも横方向にも値を検索できるため、使いわけの必要がありません

ダークモードの機能により、画面に黒の背景を設定できるようになりました。
画面の明るさを適切にすることで、**目の疲れが軽減**されます

Outlook 2021 に追加された**インクコメント**

メール本文に手描きの文字や図を挿入できる機能です

@メンション

Outlook 2021 ではメンション機能を使用できます。

複数人に送信するメールの場合でも、メールの文章中に「@」に続けて送信したい人の名前を入力することで、特にメールを読んで欲しい相手を名指しできます。

また、宛先にも自動で設定されます。

メッセージの見逃し防止やスムーズなコミュニケーションに役立ちます

Office 2021 | 新機能&更新された機能

主に、「直感的に使えて、視覚的に訴える」機能が強化されています。

下表、Office 2021 の新機能 から抜粋してみました。

Office アプリ	追加された機能の要約
Excel	<p>関数が追加！</p> <ul style="list-style-type: none">・ 左側も、右側も検索… XLOOKUP・ 動的配列・ LET 関数・ XMATCH 関数
PowerPoint	<p>スライドショー機能が強化！</p> <ul style="list-style-type: none">・ スライドショーの記録（ビデオ録画、インク、レーザーポインター）・ インクストローク再生・ スクリーンリーダー用スライド要素の配置
Outlook	<p>翻訳、検索機能が強化！</p> <ul style="list-style-type: none">・ 70 を超える言語の翻訳・ メール画像に注釈、キャンパス描写・ 検索バーからのクイック検索
その他	<ul style="list-style-type: none">・ Microsoft Search によるドキュメント検索の強化・ OpenDocument 形式 (ODF) 1.3 のサポート・ 視覚効果、描写の更新

クラス	氏名	ID	ID	11
A	田中	10	氏名	
B	斎藤	11		
C	前田	12		

関数の挿入

関数の検索(S):

ind

関数の分類(C): 候補

関数名(N):

INDEX
INDIRECT
FIND

VLOOKUP関数では元となる値は左側になければいけないという縛りが有る為元となる値を柔軟に選択できるための利点がある、数式が長いのであまり普及していないのが難点

数式 データ 校閲 表示 開発

日付/時刻 検索/行列 数学/三角 その他の関数

ADDRESS
AREAS
CHOOSE
COLUMN
COLUMNS
FIELDVALUE
FILTER
FORMULATEXT
GETPIVOTDATA
HLOOKUP
HYPERLINK
INDEX
INDIRECT
LOOKUP
MATCH
OFFSET
ROW
ROWS
RTD
fx 関数の挿入(E)...

引数の選択

INDEX

関数で使用する引数を選択してください。

引数(A):

配列,行番号,列番号
参照,行番号,列番号,領域番号

この関数のヘルプ(H) OK

関数の引数

INDEX

配列 テーブル1 = {"A","田中",10;"B","斎藤",11;"C","前田",12}

行番号 2 = 2

列番号 2 = 2

= "斎藤"

指定された行と列が交差する位置にある値またはセルの参照を返します。




列番号 には配列または参照の中にあり、値を返す列を数値で指定します。省略した場合は、必ず行番号を指定する必要があります。

数式の結果 = 斎藤

この関数のヘルプ(H) OK キャンセル

関数の引数

MATCH

検査値	<input type="text" value="\$F\$1"/>		= 11
検査範囲	<input type="text" value="テーブル1[ID]"/>		= {10;11;12}
照合の種類	<input type="text" value="0"/>		= 0

= 2

指定された照合の種類に従って検査範囲内を検索し、検査値と一致する要素の、配列内での相対的な位置を

照合の種類 には 1、0、または -1 の数値のいずれかを指定し、検査値

- ① A1:C4にデータを入力
- ② テーブルの作成 いずれかのセルを選択 Ctrl+T
- ③ セルF1に入るIDの該当者の検索
列&行の交叉した値を取得するINDEX関数を使用
ID番号から該当する氏名を表示する

まずはIndex関数から

Index関数+Match関数

- ④ セルF2をクリック関数の挿入Fxをクリック
直接入力モードで検索窓にIndと入力Enter
- ⑤ 引数は3個

配列；データの場合 A2:C4

行番号；表の中の何番目の行か=2

列番号；生の該当する列=斎藤=2

- ◎ Index関数は引数を2個で成立する事が出来る

- ⑥ B列の氏名から何番目のデータか

同じ様に配列；B2:B3

行番号；2 で成立 **組み合わせる為にはこちらの数式で行う**

上記の数式とセルF1と連動させる Match関数を使用する

- ⑦ セルF4にMatch関数を仮に入力します

検査値；F1

検査範囲；IDの列=C2:C4

照合の種類；0=完全一致

IDセルが何番目か結果として表示される

- ⑧ MATCH関数でセルF1を1 2 にしてみる

結果**3**になるが氏名に**連動していない**

- ⑨ MATCH関数の=を除く数式をコピー、**Eskクリック**、Index関数で得られたセルF2の氏名の**後ろ**
手動で2番目と入れた値と取り替えます

セルF2の氏名欄が前田になりました

IDセルに10と入れてみると氏名が田中になりました

Index関数と組み合わせることで何らかのキーとなる値を元にしてそれに連動する値を取得することが可能になります

Index関数とMATCH関数を組み合わせる事で数式が長い印象が有るが、Index関数の範囲や第2引数を書き換えることで柔軟に対応できる

Index関数で**最初に指定した引数は取ってきたい範囲を指定**している

第2引数に当たるMATCH関数は、何を元にするのかと言う事になります

⑩

テーブルの氏名の部分をクラスの範囲に変えてみると、IDに対応したクラスが表示されます

指定するテーブルの該当する部分を書き換えても柔軟に連動できる

⑪

セルF2の第二引数の部分をIDの範囲に代え、セルF1を氏名の範囲に代えると同じ様に連動した結果が得られる

例えば振り仮名の列が追加されたとしても範囲から式が成り立っているので影響なく結果が得られるメリットが有る

VLOOKUPでは常に左から何番目という法則が決まっているので慣れると活用範囲が広がるのではないだろうか